雪

津村信夫

青空文庫

信州はお隣りの越後の国にくらべると、あまり雪の多いところではありません。それでゐて、寒いことは、たいへんさむいのです。

雪がすくないといつても、もちろん平地よりはずつとたくさん降りますし、同じ信州でも、飯山(いひやま)などといふ越後にちかいところや、一茶の住んでゐた柏原や、又戸隠地方のやうな山地にゆくと、ずゐぶん、どつさり積るのです。

善光寺平の雪は、精々一尺くらゐ積れば多い方ですが、そのかはり、一度積つた雪はもう中々とけないのです。さうして、その上に、そのうへにと新らしい雪が降るのです。道の上などは、堅くかたく、まるで氷でも張つたやうになるのです。これを根雪といひますよ。

堅い雪は又時々悪さをするものです。この間も、私の知り合ひのある老婆が、夕方買物に出かけて、道をあるいてゐると、この氷のやうな雪の上で、つい足をすべらせてしまひました。さうして老婆は腰のあたりを、ひどくうつたのです。

「あゝ、ほんとに魂消(たまげ)えやした、雪も、どうして馬鹿にならない」

この勝気なおばあさんは、さういつて、こぼしてゐましたが、まる一月くらゐは動けなかつたといふことです。

年寄だけではありません、若いものでも時々しくじることがあるのです。一と冬の間には、かならず、何人かの人がころんだりして、ひどい怪我をするのです。

あなた方は、雪崩（なだれ）といふものを知つてゐますか。山地にゆくと、雪崩といふ恐ろしいものがあるのですよ。山の崖になつたやうなところに、高く積つた雪が、一度にどつと押しながされてくることです。雪崩は人の家を埋め、人をも生き埋めにしたり、押しつぶしたりするものですが、町中にゐても、雪といふものは中々こはいものですね。

自然の中に暮してゐる人々は、自然のお蔭で、色々の楽しみを持つことも出来ますが、又はげしい自然と、一と冬の間、こんなふうに戦はねばならないのです。

しかしながら、雪といへば、こんな便利なこともありました。

私が長野の町の小さな病院で、熱のある患者の看病をしてゐる時でした。東京へんだと熱のある場合、病人の頭や胴をひやすには、きまつて、氷をつかひますね、ところが、信州では氷の袋はつかひますが、中に入れるのは、氷ではなくて、雪なのです。あの堅いかたい雪なのです。

一々氷屋をよばなくとも、冬であれば病院の庭にでも、どこの空地にでも、雪のないことは珍らしいからです。

小さな病院の庭が、この雪を掘る人々で、にぎはふ光景を、私も日にいくどか眺めました。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆51　雪」作品社
　　1987（昭和62）年4月25日第1刷発行
底本の親本：「津村信夫全集　第二巻」角川書店
　　1974（昭和49）年11月
入力：向山きよみ
校正：noriko saito
2010年7月18日作成
2011年2月6日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

雪

津村信夫

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/